

2021 年度実施概要

教育委員会名

気仙沼市教育委員会

採択活動名

気仙沼市海洋教育研究開発事業

取り組みの概要

1 推進協議会等の実施状況

【海洋教育推進連絡会】

市内のパイオニアスクールプログラム参加校（幼稚園4園，小学校10校，中学校6校）に加え，海洋教育に関する取組をする高等学校2校，東京大学大学院教育学研究科附属海洋教育センター特任講師，東京海洋大学三陸サテライト職員等，関係者が集まり，4回開催した（年間5回の開催を計画していたが，9月開催予定の連絡会を感染症拡大防止の観点から中止としたもの）。

主な内容は，海洋リテラシーや，リテラシーを育む海洋教育のカリキュラム等についての研修と協議である。また，第4回は海洋教育副読本とリテラシーを大きなテーマとして，市内全小中学校を参集して研修とワークショップを開催し，副読本の活用を促すことができた。

第1回 研修 講話「海洋教育パイオニアスクール3年目となる気仙沼に期待すること」

講師 東京大学大学院教育学研究科附属海洋教育センター 特任研究員 梶川 萌 氏

第2回 研修 講話「なくそう！海洋プラスチックごみ ～「海と生きる」気仙沼対策アクション～」

講師 市民生活部生活環境課 課長補佐兼環境政策係長 菅原 昌倫 様

第3回 研修 講話「食文化から垣間見る「海と生きる」気仙沼らしさ」

講師 リアスアーク美術館 学芸員 萱岡 雅光 氏

第4回 研修 報告「気仙沼市における海洋リテラシーとカリキュラム」

～海洋教育特例校の実践報告（鹿折小学校，唐桑小学校）～

【海洋教育推進委員会】

専門委員会「気仙沼市海洋教育推進委員会」は，年間4回の会議を開催した（第5回目は，海洋教育推進連絡会と兼ねた）。

主な内容は，本市海洋教育のねらいや方向性，育みたい資質能力「気仙沼市版海洋リテラシー」の内容や位置付け，副読本のカテゴリーと海洋リテラシーとの関係，各校のカリキュラムにおける海洋リテラシー等であった。協議する中で，本市の求める「海洋リテラシー」が具体化され，「海洋リテラシー for 気仙沼」として提案，位置付けを行うことができた。

次年度も本委員会を継続し，本市において「海と生きる」とはどのようなことか，発達の段階に合わせて探究させるカリキュラム作りにつなげていきたいと考える。

【海洋教育副読本編集委員会】

専門委員会「気仙沼市海洋教育副読本編集委員会」を立ち上げ，6回の会議を開催した（うち1回は推進委員会と合同開催）。主な内容は，副読本のカテゴリーの検討，題材の選定（カテゴリーやリテラシーを学ぶのにふさわしい各校での実践の検討），副読本の編集，活用モデルの検討等であった。副読

本を『海と生きる』を学ぶガイドブック』として完成させることができた。1月の海洋教育推進連絡会において、編集委員が副読本活用モデルを提案し、市内各校に活用の見通しを持たせることができた。副読本の完成をもって本委員会を閉じるが、海洋教育推進委員会において、よりよい活用について今後検討を重ねていきたい。

2 特例校の申請状況（申請内容・校数・結果）

「海と生きる」を震災復興のキャッチフレーズに掲げる気仙沼市らしい教育の推進に向け、気仙沼市全体で海洋教育カリキュラムの構築に取り組んでいる。

今年度より、海洋教育に関する教育課程特例校として唐桑小学校が認可され、昨年認可された鹿折小学校と合わせて2校となった。両校では、特設の領域「海と生きる探究活動」を設け、海に関する地域素材や人的環境を生かした教育活動を展開している。体験的な学習を効果的に取り入れるとともに、従来の教科の学習の一部を組み入れ、発達段階に合わせて「海と生きるとはどのようなことか」を考える探究的な学習として構成している。

特例校を中学校にも展開していく計画であったが、対象校が閉校となることが決まったこと、新型コロナウイルス感染症対策として各校の活動の縮小が余儀なくされたことから、新規申請は行わなかった。

3 公開研究会・授業研究会・教員研修会・発表会等の実施状況

海洋教育こどもサミットオンライン大会

（主催：岩手県洋野町教育委員会 共催：気仙沼市教育委員会、福島県只見町教育委員会）

市教育研究員による海洋教育の研究及び授業研究

海洋プラスチックごみゼロプロジェクト研修会（教員対象研修会）

教職員地域研修会（新規採用教職員対象）

海洋フォーラム in 鹿折（鹿折小学校）

リアスサミット in 唐桑（唐桑小学校）

大島海洋教育発表会（大島小学校）

幼稚園海洋サミット（大谷海岸での4園交流会）

4 外部機関との連携

東京大学大学院附属海洋教育センターとの連携による授業への講師派遣，研修会講師，副読本編集への助言，海洋リテラシーの検討についての助言

宮城教育大学との連携による授業への講師派遣

東京海洋大学三陸サテライト主催事業への児童生徒の参加

宮城県気仙沼水産試験場の職員の会議への参加と情報共有

特定非営利法人 WWF の協力による教員研修の開催

オンラインで海外の学校と結んだ交流授業（海洋教育関連）

市の機関（水産振興センター，循環型社会推進課，環境課）の授業への協力，会議参加

5 地域・保護者を対象とした報告会等の実施状況

海洋教育こどもサミット（共催：気仙沼市教育委員会）

海洋フォーラム in 鹿折（主催：鹿折小学校）
 リアスサミット in 唐桑（主催：唐桑小学校）
 大島海洋教育発表会（主催：大島小学校）
 ESD授業研修会・提案報告会（主催：面瀬小学校）

6 その他教育委員会としての取り組み

教育委員会では、市内の海洋教育の推進に向けて、海洋教育推進委員会（令和2年度より）、海洋教育推進連絡会の運営を行うとともに、各校への指導・助言を行った。また、関係機関との連携を図り、大学や専門機関からの情報を収集し、各実践校に伝え、最新の情報を提供するように努めた。さらに、市外から転入してきた教職員に向けた地域研修のプログラムを海洋教育の視点から見直し、「海と生きる」気仙沼市について実感を伴った理解を促した（魚市場、カキ養殖場等）。気仙沼市教育研究員制度の中では、海洋教育を研究分野とした取組について助言・指導を行った。

海洋教育特例校の取組の支援としては、鹿折小学校、唐桑小学校の実施及び指導計画の改善への助言を行った。

また、幼稚園1園をパイオニアスクールとするための助言を行い、次年度は市内5園すべてがパイオニアスクールとして申請することとなった。

活動参加校名

1. 気仙沼市立唐桑幼稚園
2. 気仙沼市立大谷幼稚園
3. 気仙沼市立小泉幼稚園
4. 気仙沼市立気仙沼小学校
5. 気仙沼市立鹿折小学校
6. 気仙沼市立松岩小学校
7. 気仙沼市立階上小学校
8. 気仙沼市立大島小学校
9. 気仙沼市立面瀬小学校
10. 気仙沼市立唐桑小学校
11. 気仙沼市立中井小学校
12. 気仙沼市立小泉小学校
13. 気仙沼市立大谷小学校
14. 気仙沼市立階上中学校
15. 気仙沼市立大島中学校
16. 気仙沼市立面瀬中学校
17. 気仙沼市立唐桑中学校
18. 気仙沼市立大谷中学校
19. 気仙沼市立鹿折中学校
20. 気仙沼市立松園幼稚園